

第2回策定委員会(1月27日開催)における主な議論について①

【第2期総合戦略の素案作りに係る意見】

<Aグループ>

(まちづくり)

- 第2期では清水沢地区はもちろんのこと、北部や紅葉山地区のあり方についても考えた方が良いのではないかと。例えば北部は博物館、スキー場、スポーツ施設など。紅葉山地区はまちの玄関口として将来像を描いていくのがよいのではないかと。
- まちをコンパクト化するには、人のつながりの観点を持つことが重要ではないかと。知り合いが周りにいない、町内会もないだと幸せに暮らせないと。
- 大きい町内会でさえ運営が危ぶまれている状況である。行政の何かしらのサポートが必要ではないかと。また、防災の観点からも地域のつながり(町内会)は重要ではないかと。
- たとえばITや5Gなどを視野に入れてまちづくりをして、夕張から発信していくような、今までにない発想でまちづくりをしていくのがよいのではないかと。そのためには通信インフラについても考えていく必要があるのではないかと。

(医療・福祉)

- 第1期で足りないと感じている分野は医療の面ではないかと。専門科(とくに小児科)のニーズが高いと感じる。
- 妻が里帰り出産せざるを得なかったため、非常に大変な思いをした。2人目を躊躇するほどである。
- Society5.0の考え方から、オンライン診療などができるとよいのではないかと。
- 介護施設等のハード面は、近隣自治体より充実している。ソフト面、特にマンパワーが不足しているのではないかと。
- 在宅(介護)の高齢者の方は、家族の意向もあって転出していくが、夕張で暮らしたいと考えている人も多く、見守りの体制さえあれば残れる人も多いのではないかと。

第2回策定委員会(1月27日開催)における主な議論について②

- 地域の見守りのためには、町内会が重要な役割を持つと考えるが、地域によって活動の格差が生じているため、行政のサポートが必要ではないか。

(交流人口・関係人口)

- 夕張会の方々から「力になりたいが何をすればいいか」と問われることもあり、どのように力をいただけるかといった観点で今後議論していくことが必要ではないか。
- ダム、スキー場、産業遺産などを活かした(体験型)観光で、夕張を通過していた人の足を止めるという観点が必要ではないか。
- 継続してイベントがあれば、市内の人の繋がりづくりにもなるのではないか。
- 行政は基本的には情報発信などの役割を担うのがよいのではないか。
- 若い人は自分たちとは違う目線、発信力がある。中高生や企業の若手を活用して、夕張の魅力の発信をしてはどうか。情報発信を通して、夕張の幸せな暮らし、魅力が伝わっていくとよいのではないか。
- 中高生が夕張の魅力を探し、映像を撮ってもらい、情報発信をするプロジェクトを考えている。これを通して、中高生が夕張のことをポジティブな発信ができるようになるのではないか。

(雇用)

- 市内企業にもまだまだ雇用できる場所はありますが、地元採用が難しい状況(応募者が少ない)という話もある。そうしたことも考えながら、まちづくりについて議論した方がよいのではないか。
- 市内で働く人のために、市営住宅の入居要件の緩和等も考えた方がよいのではないか。

<Bグループ>

(まちづくり)

- 住宅の整備は成果も出ており、引き続き取り組むべきではないか。

第2回策定委員会(1月27日開催)における主な議論について③

○ コンパクトシティ化は各地域のバランスを見ながら行うべきではないか。

○ 老朽化した水道管の補修・更新等、インフラ整備をしっかりと行った方が良いのではないか。

(交流人口・関係人口)

○ スキー場の冬季利用者の75%は日帰り客であり、夕張に来て来訪先がレースイのみで他の店に行っていない。欧米人の旅行は長期滞在するケースが多いので、夕張をまわってもらえるようなものを考えていく必要があるのではないか。

○ 市もPR活動をもっと積極的に行った方が良いのではないか。行政が外から人を呼び込むという意思を示すことが大事ではないか。

○ サッカー場の利用者もリピーターが多い。また、人のネットワークによる利用も多い。こうしたところに着目してスポーツ施設の活用を促進することが大事ではないか。

○ スキー留学等、市の特徴を活かした取組ができないか。

(医療・福祉)

○ 夕張は札幌から日帰りできるので、専門医師を招いて診療科目を増やすことは可能ではないか。

(雇用)

○ ハローワーク利用者は高齢者が多く、求人の条件と合わないことがあるので、シルバー人材センターの利用促進等を図ってみるのもよいのではないか。

○ 夏場のメロン収穫時期は中国から70名の実習生を受け入れており、この労働力がないと成り立たない。住宅の問題や受入環境の整備等、市と連携して取り組んでいくのがよいのではないか。

(移住・定住)

○ 田舎暮らしが好きな人へ特化してアピールしてみるのもよいのではないか。